

2024年度 活動報告書



甲南大学 社会連携機構 地域連携センター
学生コーディネーター「なんティア」

目次

1. 地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」2024年度の活動概要	2
2. 全体的な取り組み	3
(1)研修および成果報告会	3
(2)CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)マッチングイベント 2024	5
(3)他大学の視察および交流	6
(4)学生ピア相談活動	7
(5)全体広報	9
3. 各チーム・プロジェクトの取り組み	10
(1)コーディネーションチーム	10
(2)広報チーム	12
(3)企画チーム	14
(4)アイシティ eco プロジェクト	16
(5)voluncheer(ボランティア)ガイド	18
4. 活動を振り返って	19
(1)年間スケジュール	19
(2)メンバーのコメント	20
(3)2024 年度メンバー一覧	24
(4)これまでの歩み	26



1. 地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」2024年度の活動概要



【図 1-1】1 年生を初めて迎えた定例会後の集合写真
(2024 年 5 月 15 日撮影)

「なんティア」とは、甲南大学社会連携機構地域連携センター(以下 KOREC:コレック)の学生コーディネーターの団体です。なんティアでは、KOREC の教職員と協力し、ボランティア活動において学生と地域団体をつなぐ橋渡し役を担っています。現在、計 24 名の学生が活動中です(2024 年 12 月末現在)。

2024 年度の3つの目標は「ボランティア活動に関心のある甲南大生の一步を踏み出すきっかけを増やす」、「ボランティアコーディネーション力を高める」、「メンバー間の関わりを深める」です。特に、メンバー自らが自身の育成計画を立てるとともに、3 年生が後輩の活動をサポートする仕組みを新規で取り入れました。また、なんティアの「ユニフォーム」としてオリジナルのスポーツベストを制作したり、メンバー間での食事の回数を増やすなど、チームの一体感や親睦をより深めることをめざしました。

全体では、前・後期それぞれ春および秋の研修にてボランティアコーディネーションについて理解を深めるとともに、2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の支援活動に取り組む NGO 関係者による講演に参加しました。また、甲南大生のボランティア活動の相談に応じる「学生ピア相談活動」を定期開催したり、地域団体と学生のマッチングイベントにおいてファシリテーターを担当するなど、甲南大生のボランティア活動の参加の機会を提供するとともに 関西大学ボランティアセンターの学生スタッフとの交流会の実施など、対外的な活動にも取り組みました。

また、「コーディネーションチーム」、「広報チーム」、「企画チーム」の3チームに分かれ、チームごとに活動に取り組みました。まず、コーディネーションチームは、出張ピア相談に取り組む「ボランティア情報展示・相談会」を開催し、過去最高の参加者を得ました。さらに、はじめてボランティア活動に参加する甲南大生に学生コーディネーターが同行する「イベント型学生ピア相談会」を新規開催し、多くの反響を得ました。次に広報チームは、公式 Instagram の運営および投稿記事の拡充や、イベント時に掲げる「のぼり旗」を新たに作成しました。最後に企画チームは、ボランティア活動の意義や社会問題を学ぶ研修を組み合わせた「ボランティアプログラム」を実施しました。

なお、前述のユニフォームおよびのぼり旗は、「KONAN 未来サポーターズ募金」のご支援を受けて、制作することができました。この場をお借りして、ご支援を賜りました皆様に御礼申し上げます。

2. 全体的な取り組み

(1)研修および成果報告会

概要：活動に取り組むうえで必要な知識やスキルを習得することを目的に研修を実施した。場所はいずれも甲南大学岡本キャンパスにて実施し、2 回目の春の研修、3 回目の基礎研修は 3 年生が講師を務めた。特に、今年度より自ら自身の育成計画を立てるとともに、3 年生が後輩をサポートする仕組みを導入した（敬称略）。

①春の研修

・時間：いずれも 16 時 20 分～17 時 50 分

・場所：いずれも 11 号館 306 教室

・内容：

【1 回目】日時：2024 年 4 月 10 日（水）

参加者数：11 名、内容：2024 年度の目標決め【図 2-1】

【2 回目】日時：2024 年 4 月 17 日（水）

参加者数：10 名、内容：育成プランの検討



【図2-1】目標案の発表
(2024 年 4 月 10 日撮影)

②新入生向け基礎研修

・時間：いずれも 16 時 20 分～17 時 50 分

・場所：(1・2 回目) 11-305 教室、(3 回目) 2-51 教室

・内容：

【1 回目】日時：2024 年 5 月 15 日（水）、参加者数：11 名、内容：「ボランティア活動、地域活動とは何か」

演習：「ボランティアを探そう」（講師：佐々木、弘中、森川）

【図 2-2】

【2 回目】日時：2024 年 5 月 22 日（水）、参加者数：

12 名、内容：「IT リテラシーとは何か」とは何か、演習：

「実際にメールを送ってみよう」（講師：酒井、森川）

【3 回目】日時：2024 年 5 月 29 日（水）、参加者数：

16 名、内容：「能登半島地震 災害ボランティアのいま」

（講師：被災地 NGO 協働センター代表 頼政良太，

聞き手：岡村こず恵（全学共通教育センター）【図 2-3】



【図2-2】ボランティアや地域活動
について解説
(2024 年 5 月 15 日撮影)



【図2-3】能登半島地震における災
害ボランティア活動について
(2024 年 5 月 29 日撮影)

③審査会（企画提案）

・日時：2024 年 6 月 5 日（水）16 時 30 分～18 時 00 分

・参加者数：18 名 ・場所：11 号館 306 教室

・内容：各チームによる今年度の企画のプレゼンテーション

・講評：学長補佐，社会連携機構長，地域連携センター所長 阿部 真大（文学部社会学科教授），
社会連携機構事務室 課長 松下 賢一ほか

④秋の研修

・時間：(1 回目) 16 時 20 分～17 時 50 分

(2 回目) 16 時 20 分～16 時 50 分

・場所：いずれも 11-306 教室

・内容：

【1 回目】日時：2024 年 9 月 25 日(水)、参加者数：16 名、

内容：「学生ピア相談について」【図 2-4】

【2 回目】日時：2024 年 10 月 23 日(水)、参加者数：16

名、内容：「ボランティア活動経験の共有」



【図2-4】模擬コーディネーション研修の様子
(2024 年 9 月 25 日撮影)

⑤成果発表会および交代式【図 2-5】

・日時：2024 年 12 月 18 日(水) 16 時 20 分～17 時 50 分

・場所：iCommoms 2階 L4

・参加者数：学生 20 名、教職員 5 名

・内容：各チームの成果報告、交代式

・講評(敬称略)

：地域連携センター参与 金坂成通(マネジメント創造学部
准教授)

社会連携機構事務局 課長 松下 賢一ほか



【図2-5】成果報告会
(2024 年 12 月 18 日撮影)

⑥ボランティア・サーティフィケートの取得

2023 年度より引き続き 2024 年度も、甲南大学独自の評価制度である「ボランティア・サーティフィケート」の取得を目指した。今年度はメンバーの取得率 5 割を目標としていたが、結果として 24 名中 14 名(約 6 割)が取得し(うち本年度取得者数は 10 名)、目標を達成できた。

◆ボランティア・サーティフィケート累積取得者(下線は、本年度取得)

<1 級取得者> なし

<2 級取得者> 森川遥菜、上間拓斗、小林英誠、坂本蒼依

<3 級取得者> 松居ももか、阪本萌衣、橋本育成、御手洗由利菜、大橋夏芽、加納李稔、黒田千冬、高原優梨、中川あかり、野田彩菜



(担当：藤本)

(2)CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)マッチングイベント 2024

【活動概要】

地域連携センターが主催する「CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)～マッチングイベント 2024～」にて、ファシリテーターを担った【図 2-6】。

- ・日時: 2024 年 6 月 22 日(土) 10 時～12 時
- ・場所: 5 号館 3 階 サイバーライブラリー「共同学修エリア」
- ・参加者数: 57 名

(内訳)・地域団体 15 団体 22 名

・学生コーディネーター 2 年生以上 12 名

・一般学生 23 名(一般学生 14 名+

学生コーディネーター 1 年生 9 名)



【図 2-6】
マッチングイベント当日の様子
(2024 年 6 月 22 日撮影)

【結果】

本イベントは、普段出会う機会の少ない地域団体と学生との交流を通じて、お互いを知り、活動を広げるきっかけとなる機会を提供するイベントである。当日は、各セッションが約 15 分間で行われ、参加者は 5 つのグループに分かれてディスカッションを行った。学生は 3～4 名で順にグループを移動し、各地域団体から活動内容や、ボランティアの募集情報の説明を受ける。今年度は新たに、地域団体の皆さんも他のグループを巡回できるように工夫した。各テーブルでは、地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」のメンバーがファシリテーターとして運営をサポートした。また、学生と地域団体の交流を深めるために、参加学生は 1 人 30 秒間で「印象に残る一言」を使った自己紹介を行い、人前で話す練習もできるような取り組みを行った。

【評価】

イベント後に行ったアンケートによると、すべての地域団体と参加学生から「満足」「大変満足」との高い評価を得られた。また、「本イベントを通じて、団体の活動に興味を持ち、参加してみたいと思った団体はありますか。」という参加学生に向けた質問に対しては 9 割以上の学生が、「団体の活動に興味を持ち、参加してみたい団体を見つけた」との回答を得た。地域団体の参加者からは「意欲的な学生ばかりで有意義な時間になった」、「他団体との交流が深められたのがよかった」といった感想が寄せられた。以上のことから、地域団体・参加学生からともに高い評価を受け、充実した時間を提供できたといえる。

【今後の課題】

地域団体や参加学生から、「情報量が多く落ち着いて聞くことが出来なかった」、「隣のブースの学生の声で聞こえづらいことがあった」というイベントの運営や会場のレイアウトに関する指摘があり、今後改善する予定である。今後は、ファシリテーターとして多くの情報を参加者に分かりやすく伝えるために、ホワイトボードのまとめ方を工夫し、説明のサポートができるようにしていきたい。また、自分が担当するブースだけでなく、全体の状況を見て、行動できるように努めたい。

(担当: 橋本)

(3)他大学の視察および交流

【活動概要】

関西大学ボランティアセンター学生スタッフおよび甲南大学地域連携センター学生コーディネーターの交流会を実施した【図 2-7】。

・日時：2024 年 10 月 5 日(土)10:00～12:00

・場所：関西大学(千里山キャンパス)

・参加者数：30 名(関西大生 10 名、職員 2 名
／甲南大生 17 名、教員 1 名)

・主な内容：

○代表者による両校の活動紹介(30 分)

○グループでの意見交流(30 分)

○全体共有(15 分)

○関西大学ボランティアセンターの見学・写真撮影
(20 分)



【図 2-7】関西大学ボランティアセンターの学生スタッフと交流
(2024 年 10 月 5 日撮影)

※関西大学では計 100 名程度の学生スタッフの方が活動中

【結果】

・両校の活動内容を互いに紹介し、お互いの活動における課題や特徴について意見交流できた。

・関西大学の広報誌「Volury(ボラリー)」による学生スタッフに関する情報発信や、学生の関心の高いボランティア活動のニーズを調査してそのボランティア募集情報を提供するなど、運営や活動方法の工夫を学べた。

【評価】

組織内の運営方法やイベント管理だけでなく、他団体との連携など、他校の取り組みの工夫を学べた。また、視察後に、なんティアの活動で取り入れられる内容をチームに持ち帰って検討し、今後に向けた改善案を検討することができた。

【今後の課題】

検討の結果、次年度は、企画チームにてボランティア活動に関するニーズ調査を、またコーディネーションチームにて、今年度好評だったボランティア情報展示・相談会の開催頻度を増やすことを検討している。なお、広報チームにおいて情報誌の発行を検討したが、次年度は調査プロジェクトを予定しているため、見送ることとした。

【特記事項】

近年、学内外のネットワーク活動において参加を求められることが増えてきた。そのため、各活動概要を整理し、優先順位をつけて計画的に参加を検討することとした。

(担当：岡野)

(4)学生ピア相談活動

1) 定例相談会

【活動概要】

学生コーディネーター（以下「学生 Co」）が、平日の昼休みや4限の時間に、学生という同じ立場（peer, ピア）であることを生かしてボランティアの相談に応じ、甲南大生のボランティアや地域活動への参加の促進をめざす【2-8】。

・日時：2024 年4～6、10～12月

（7 月はコーディネーションチームによるイベント型ピア相談を開催。詳細は 10 頁を参照のこと）

・昼休み（12 時 20 分～12 時 50 分）

・4限（14 時 40 分～16 時 10 分）

・場所：12 号館 1 階地域連携センター

・実施回数：97 回実施（前年度 22 回増）

・学生 Co 参加人数：のべ 154 人（前年度比 55 人増）

・学生対応者数：19 人（前年度比 7 人増）

（※2024 年12 月 31 日現在）



【図 2-8】学生ピア相談活動の様子
（2024 年 11 月 20 日撮影）

【結果】

・実施回数や学生 Co 参加人数、学生対応者数が昨年度より増加したことで、より多くの学生にボランティア参加のきっかけを提供し、学生 Co 全体の学生ピア相談の経験値を増やすことにつながった。

・学生ピア相談フェイスシートの作成（11 月から運用開始）

より円滑なピア相談の実施と個別の相談内容の把握・管理を目的とし、ピア相談に訪れた学生の相談内容や学生 CO の対応を記録するために、コーディネーションチームが作成した。

【評価】

・学生対応者数は増加したものの、日誌には「人通りが少ない」、「学生来所者が 0 人で残念だった」との記録が多く見受けられ、相談者増加のための施策や開催頻度等の検討が必要であると考える。

・学生ピア相談フェイスシートの作成によって、学生ピア相談対応の記録管理を円滑にし、質問内容の可視化を通じて質の高いピア相談を実施する環境を整備することができた。

【今後の課題】

・相談対応人数 19 人の内、前期の対応が 15 人であったことから、前期の学生ピア相談活動の強化を検討することが必要であると考える。

・コーディネーションチームが事前申し込み制で募集した7月開催の「イベント型ピア相談」では、2 週間の実施期間に 15 人の申し込みがあった。このことから、通常のピア相談でも申し込み制を取り入れるのか等、運営方法の検討をする必要があると考える。

・次年度以降、フェイスシートを運用し活用する中で生じた課題から、内容や運用方法の見直しを行う必要がある。
（担当：酒井）

2)「ボランティア情報展示・相談会」の開催

【活動概要】

ボランティア活動に関心があるが参加する勇気や機会がない甲南大生に、参加のきっかけを提供するために、ボランティア情報の掲示や出張ピア相談をイベント形式で実施した【図 2-9】。

- ・日時:2024 年 4 月 26 日(金)10 時 40 分から 16 時 10 分
- ・場所:岡本キャンパス iCommons Agora West
- ・参加者数:65 名(うち、ピア相談利用者38名)(前年度比 2 名増)
- ・活動内容:ボランティア募集チラシの掲示／学生コーディネーターによるお勧めコメントを掲載したポップ展示／voluncheer(ボランチア)ガイドを活用した出張学生ピア相談会の実施
- ・参加者アンケート回答者内訳
 - ・17 名(1 年 10 名、2 年 5 名、3 年 1 名、4 年 1 名)

【結果】

- ・参加者数:1 日開催 65 名(前年度は 2 日開催 63 名)。
- ・なんティア全員で協力して取り組むことができた。

【評価】

参加者アンケート結果(回答数 17, 回答率 26.2%)によると、「満足」「やや満足」が 100%、また、今後同様のイベントがあった場合、「参加したい」「予定が合えば参加したい」との回答が 100%であった。また、学生コーディネーターのアンケート結果(回答数 11, 回答率 100%)によると、本イベントを今後も開催すべきかを尋ねたところ、全員から「開催すべき」との回答を得た。以上のように、参加者と学生 Co の双方から高い評価を受けていることから、来年度以降も本イベントを継続していくことに意義があるといえる。



【図 2-9】ボランティア情報展示
・相談会の様子
(2024 年 4 月 26 日撮影)

【今後の課題】

- ・参加者アンケートにて、「団体で(参加)できるボランティアを増やして欲しい」とのコメントがあったが、団体で参加するボランティア活動は、地域連携センターで個別に相談に応じているため、今後はそうした情報提供も検討したい。
- ・学生 Co アンケートにて、「対応したものの傾聴がしっかりできたとは自信をもって言えない」、「明るく親しみやすい雰囲気では対応できなかった」等のコメントがあったことから、引き続きコーディネーション力の向上のための場の提供の必要性があることが考えられる。今後も、ピア相談イベントや、模擬コーディネーション研修を実施することなどを検討したい。
- ・関西大学ボランティアセンターを視察して、出張ピア相談活動の有効性を確認したので、今後、本イベントの開催頻度を増やすことを検討する。

(担当:御手洗)

(5)全体広報

【活動概要】ウェブサイトを中心に、広報活動に取り組んだ。

1) 活動全般について情報発信

◎掲載媒体:地域連携センターウェブサイト「活動報告」／甲南 Ch.(カテゴリ:「地域連携」)

- ・2024 年5月29日「地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」4 年目の活動がはじまりました!」(森川遥菜)
- ・6月3日「ボランティア活動を始めてみませんか? ～ボランティア情報展示・相談会～」(御手洗由璃菜)
- ・7月12日「地域団体と学生をつなぐ ～マッチングプロジェクトを開催しました～」(橋本育明)
- ・10月29日「KONAN 未来サポーターズの皆様のご支援をいただき、地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」のユニフォームを制作しました!」(上間拓人)
- ・11 月 8 日「他大学の学生スタッフとの交流 ～関西大学ボランティアセンターを訪問しました!」(阪上優志)
- ・2025 年 1 月 28 日「2024 年度の活動目標に対する評価と次年度に向けて」(藤本心菜)
- ・1 月 28 日「学生ピア相談活動を生かして、甲南大生の需要に合わせた企画作り」(藤本心菜)
- ・1 月 28 日「なんティアの認知度向上とボランティア活動の啓発に取り組みました!」(黒田千冬)
- ・1 月 28 日「あなたの初めてのボランティア活動をサポートします! ～神戸を守る森林ボランティア～」を実施しました!」(加納李稔, 山野颯葵)
- ・1 月 28 日「KONAN 未来サポーターズの皆様のご支援をいただき、地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」の「のぼり旗」を制作しました!」(坂本蒼依)
- ・2 月 4 日「コンタクトレンズの空ケース回収にご協力いただき、ありがとうございました!」(阪上優志)
- ・2 月 4 日「地域のボランティア団体を手描きの冊子で紹介」(岡野将太)

※【参考】個人のボランティア活動結果を地域連携センターのウェブサイトで発信した。

- ・2024年8月29日「「S-space」でのボランティア活動報告」(中川あかり)
- ・9月25日「「PoPPo」の活動に参加しました!」(黒田千冬)
- ・9月25日「令和6年夏季アマゴつかみボランティアに参加しました。」(野田彩菜)
- ・9月25日「「ちっちゃなアーティスト活動」のボランティアに参加しました!」(大橋夏芽)
- ・9月26日「私は NPO 法人こうべユースネットの学習支援ボランティアに参加しました。」(永茂いぶき)
- ・9月26日「食料・生活用品配布会補助」(山野颯葵)
- ・9月26日「「多文化共生センターひょうご」主催の食料・生活用品配布会に参加しました!」(加納李稔)
- ・10月22日「学習支援をしてきました」(玉岡穂ノ佳)
- ・10月26日「PoPPo が主催するイベントの運営をお手伝いするボランティア活動に参加しました!」(高原優梨)

(担当:小林)

3. 各チーム・プロジェクトの取り組み



【図 3-1】コーディネーションチームのメンバー
(2024 年12月4日撮影)

(1) コーディネーションチーム

【活動概要】

コーディネーションチームは、学生コーディネーターのコーディネーション力向上や、甲南大生のボランティア活動促進のための様々な企画に取り組むチームである。今年度のチームメンバーは、酒井菜緒、藤本心菜、阪上優志、御手洗由璃菜、大橋夏芽、永茂いぶき、野田彩菜、阪本萌衣、牧風花の計 9 人である【図 3-1】。

今年度の活動概要は以下の通り。

①「ボランティア情報展示・相談会」の開催

イベントの企画、運営をした。詳細は8頁を参照のこと。

②「イベント型学生ピア相談会」の開催

・概要：ボランティアに関心はあるが参加したことがない甲南大生を対象に、学生コーディネーターが相談に応じ、夏休みのボランティア活動先を一緒に探した。また希望があった相談者には、学生コーディネーターがボランティア活動に同行した。

・日時：2024 年 7 月 2～11 日

・場所：地域連携センター (KOREC)

・参加者数：10名 (うち学生コーディネーターの同行を希望した甲南大生：1名)

③ピア相談フェイスシートの作成

フェイスシートの掲載事項の検討と作成を行った。詳細は7頁を参照のこと。

④学生ピア相談紹介チラシの作成

・概要：甲南大生に学生ピア相談を知ってもらうために、学生ピア相談の実施内容の詳細を記載したポスターを作成した【図 3-2】。

・掲載内容：開催日時、実施場所、学生ピア相談の活動内容、なんティアの説明、活動写真

【結果】

◎「イベント型学生ピア相談会」の開催

10名の学生のピア相談に応じるとともに、学生コーディネーターに相談経験を積む場を提供できた。

◎学生ピア相談紹介チラシの作成

チラシを作成したことにより、学生ピア相談の存在を甲南大生に知ってもらう機会を提供できた。



【図 3-2】学生ピア相談の案内チラシ

【評価と今後の課題】

◎「イベント型学生ピア相談会」

- ・以下の評価基準を満たすことができた。

<参加学生への事後アンケート>

「イベント型ピア相談に参加して良かったか」、「学生 CO と共にボランティアに参加したことで、ボランティアに参加しやすいと感じたか」、「今後ボランティアに参加するきっかけとなったか」の設問において 5 段階中 4 以上の満足度を得た。

<学生 CO への事後アンケート>

「ピア相談の経験が、自身のコーディネーション力向上につながったと感じたか」の設問において、5 段階中 4 以上を達成できた。

- ・15 人の応募があったが、当日は 10 人の参加に留まった（うち 1 名は当日参加）。企画自体のニーズは高いため、今後も企画は継続するべきといえる。
- ・ただし、当日欠席が多かった。原因の 1 つに、直前連絡が不足していたことが挙げられる。そのため、今後同様のイベントを実施する際は直前連絡を徹底する必要がある。
- ・10 人のうち 5 人が学生コーディネーターによるボランティア活動への同行を希望したが、実際に同行したのは 1 名だった。学生ピア相談実施時間内に対応を終えられず、日程調整が長引いたことが原因だと考えられる。
- ・同行が実施できないとアンケート回収が困難だった為、回収のタイミングを見直すべきである。
- ・時間内に対応が終わらず、ボランティア活動へ同行の日程調整に時間を要したため、学生コーディネーターが事前にボランティア情報を十分に把握することで限られた時間で実施できるようにする。
- ・他チームとの連携をふまえて、コーディネーションチームのメンバーが全日程のシフトに入り、イベントを運営することが望ましい。

【達成を目指す SDGs】

「4:質の高い教育をみんなに」、「17:パートナーシップで目標を達成しよう」

私達は今年度の活動から、学生ピア相談を通して、ボランティアの機会を提供することにより、甲南生が地域社会で学びを得ること、学生同士や地域の方々などと協力関係を築くことを目指す。

(担当:酒井、藤本)

(2)広報チーム



【図 3-3】広報チームのメンバー(2024 年12月4日撮影)

【活動概要】

今年度の広報チームは、なんティアの知名度向上と甲南大生のボランティア活動や地域連携活動への関心を高めるために、①公式 Instagram を用いた広報活動、②のぼり旗、ポスター旗の作成を行った。なお企画していた合同説明会については、チームの内のメンバー変更があり、実施を断念した。メンバーは中嶋勇介、森川遥菜、坂本蒼依、岡野将太、黒田千冬、高原優梨、玉岡穂ノ佳の計7名。

【結果】

① 公式 Instagram を用いた広報活動

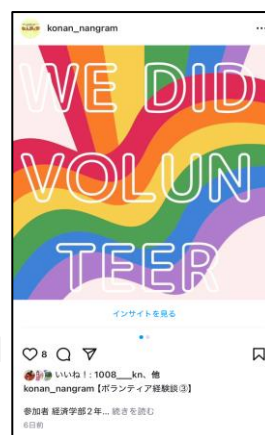
<登録者数>

・登録者数:350人(目標 400 人)
(2024 年12月末現在、前年比183人増)

<投稿コンテンツ>※()は投稿回数

- ・なんティアメンバーのボランティア経験談(6)【図 3-4】
- ・ボランティア募集(14)【図 3-5】
- ・他チームのイベント広報(2)
- ・関西大学視察の広報(1)
- ・アイシティ eco プロジェクト(1)
- ・KONAN Students Forum(1)
- ・CHIKI×GAKUSEI マッチングイベント関連(2)
- ・なんティアユニフォーム完成について(1)
- ・新歓祭新メンバー募集(1)

計29回投稿



【図 3-4】ボランティア経験談



【図 3-5】ボランティア募集

② のぼり旗、ポスター旗の作成

なんティアが開催する「ボランティア情報展示・相談会」のようなイベントを遠くから見た際、視認性がよくないため、イベントを行っていることを学生に伝わりやすくする目的で作成した。のぼり旗は、KONAN 未来サポーターズ募金より 20 万円のご支援をいただき、その一部を活用した。【図 3-6】

またポスター旗を制作した。オープンキャンパス等のイベント等での使用を予定している。【図 3-7】



【図 3-6】のぼり旗



【図 3-7】ポスター旗

【評価】

公式 Instagram の目標登録者 400 人を達成することができなかった。原因として、中心メンバーの退会があり、合同説明会を実施せず計画を変更し、のぼり旗の作成を行ったため、公式 Instagram 自体の宣伝を行う機会が少なかったことが考えられる。一方で、昨年と比較し投稿数を増やすことができた。昨年は投稿数が 10 回だったが、今年度は、29 回投稿することができた。この取り組みは、来年度も続けていきたい。

【今後の課題】

①公式 Instagram を用いた広報活動

- ・公式 Instagram アカウントの宣伝不足
- ・年間スケジュールの徹底

②のぼり旗、ポスター旗の制作【図 3-8】

- ・管理マニュアルを定期的に見直す
- ・活用機会を増やす

③その他

- ・なんティアの活動を大学内外や地域社会に効果的

に伝え、相互理解を深めるためにコミュニケーション戦略を構築する



【図 3-8】のぼり旗完成
(2025 年 1 月 8 日撮影)

【達成を目指す SDGs】

「3:すべての人に健康と福祉を」,「4:質の高い教育をみんなに」

広報チームによるなんティアの宣伝によって、地域連携センターや学生ピア相談活動、イベント等の存在を知ってもらい、ボランティアに参加するきっかけをつくる。

(担当:坂本)

(3)企画チーム



【図 3-9】イベント当日（2024年10月21日撮影）

【活動概要】

企画チームは、ボランティア参加の不安を取り除くことを目的にしたボランティアプログラムの開発に取り組んだ。メンバーは松居ももか、上間拓人、森川遥菜、弘中美緒、橋本育明、小林英誠、加納李穂、中川あかり、山野颯葵の計9名である【図 3-9】。

本年度は、六甲山で森林保全活動に携わる「フォレスター松寿」にご協力いただき、森林保全活動に参加するボランティアプログラムを企画した。なんティアメンバーと一緒に参加することで、甲南大生が安心して活動できる企画を目指した。昨年の活動を踏まえ、特に、ボランティア活動の意義や地域課題を考えるきっかけを提供することに力を入れた。また、昨年度より多くの学生が参加できる企画を目指してプログラムを設計した。

・プログラム名：あなたの初めてのボランティア活動をサポートします！『神戸を守る森林ボランティア』

－10月7日（月）：事前説明会

－10月19日（土）：ボランティア活動当日【図 3-10】

－10月21日（月）：振り返りの会【図 3-11】

・参加者数：一般参加の甲南生 4 人、なんティアメンバー 7 人



【図 3-10】下草刈りを行う様子
（2024年10月19日撮影）



【図 3-11】振り返りの会で意見共有
（2024年10月21日撮影）

2. ユニフォームの制作

「KONAN 未来サポーターズ募金」の一部を活用して、なんティアのユニフォームを制作した。これは学生コーディネーターを一目で識別できるようにするためである。2023 年度に立命館大学ボランティアセンターを視察しユニフォームの有効性を学んだことや、名札だけでは学生コーディネーターと参加者を見分けられないとの指摘があったため、制作に至った。

【結果】

1. ボランティアプログラムの開発

企画段階で一部のメンバーが連携先のボランティア活動に参加し、活動内容の理解に努めた。その経験をもとに、森林ボランティアの背景にある地域課題や活動の意義、継続性について解説し、ボランティア体験だけでなく、活動の社会的意義を伝えられるように工夫した。

2. ユニフォームの制作

ユニフォームは、どの季節でも使いやすいスポーツベストに決定した。生地の色は甲南大学カラーを連想する「バーガンディ」を採用し、背中と右胸に文字、左胸にロゴマークを配置した【図 3-12】。また、管理マニュアルを作成した。

【評価】

1. ボランティアプログラムの開発

〈イベント終了後のアンケート結果より〉（回答者3名）

- ・イベントの総合的な満足度について、1名が「満足」、2名が「ある程度満足」と回答。
- ・「本企画で得た学びは？」という質問に対して、2名が「今回のボランティアが解決を目指す社会課題」を選択。→ボランティア活動が地域課題の解決につながっていることが参加者にも伝わった。

- ・「今後ボランティアに参加したいと思うか」の質問に対し、全員が「4. ある程度そう思う」と回答。
※企画終了後、参加者1名から「フォレスター松寿の活動に継続して参加したい」との申し出有り
以上より、本事業は甲南大生のボランティア参加促進に繋がったと評価する。一方、昨年と比べ参加者は減少し属性に偏りがあった。甲南大生のニーズを把握し、企画に反映することが課題である。



【図 3-12】ユニフォーム完成記念の集合写真
(2024 年 10 月 16 日撮影)

【課題】

① ボランティアプログラム開発

- ・雨天時の予備スケジュールを詳細に設定する
- ・企画段階で全員が連携先のボランティアに参加する→活動内容を事前に理解する
- ・広報手段に抜けが無いよう、媒体一覧を引き継ぐ

② ユニフォームの運用

- ・ユニフォームを着る機会を極力増やすように働きかける

【達成を目指す SDGs】

- 「4:質の高い教育をみんなに」、「11:住み続けられるまちづくりを」、
「15:陸の豊かさも守ろう」、「17:パートナーシップで目標を達成しよう」

学生コーディネーターが、甲南大生のために企画したボランティアプログラムの実施によって、ボランティア活動の参加のきっかけや、社会課題に触れる機会を提供できた。今後も多くの地域団体と連携し、ボランティア活動の機会を増やしていきたい。
(担当:小林)

(4)アイシティ eco プロジェクト



【活動概要】

アイシティ ECO プロジェクトチームは、広報活動を通じて本学の学生に向けてアイシティ ECO プロジェクトの活動の認知度向上、使い捨てコンタクト空ケースの回収量の増加を目的に活動した。メンバーは阪上優志の計1人である。今年度の活動内容は以下の3点である。

①コンタクトレンズの空ケースの回収活動【図 3-13】

→定期的に回収ボックスを見回りし、空ケースを回収した。

②回収ボックスの装飾【図 3-15・16】

目標数を可視化するために、大型回収ボックスに目標数を書いたポップなどを貼り、テープで印を付けた。

・設置場所：12号館1階、iCommons2階（学生生活支援センター前）

③広報活動

・My Konan:回収協力の呼びかけ(7月2日、10月9日)

・Twitter:回収協力の呼びかけ(10月9日)

・Instagram:回収活動の様子を投稿:計4回

・オリジナルポスターの作成【図 3-14】

-掲載場所-

ファミリーマート向かいの椅子の前

1、3号館学生ラウンジ

・アイシティの指定ポスター掲示

-掲載場所-

ファミリーマート東側の壁

iCommons2階北側エレベーター乗り口横



【図 3-13】回収活動の様子
(2024年9月25日撮影)



【図 3-14】オリジナルポスター



【図 3-15】装飾前の回収ボックス

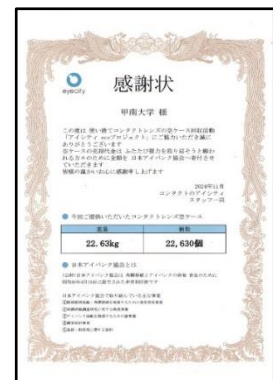


【図 3-16】装飾後の回収ボックス

【結果および評価】

- 回収量:22.63kg
- 回収活動:2024年5月7日、7月10日、9月25日、11月19日
- 1ヶ月あたりの回収量は前年度比0.61kg増加した【表3-1】。
- 総回収量が2023年度より13.21kg増加しており、1ヶ月の回収量が2023年度と比べて0.88kg増えている。【表3-1】
- コンタクトのアイシティより感謝状をいただいた。【図3-17】

以上の結果より、甲南大学生の協力が増えていることが伺える。それに伴い2024年度に行った活動は認知度向上、使い捨てコンタクト空ケースの回収量向上に成功したと考えられる。



【図3-17】アイシティより感謝状

【表3-1 回収量の比較】

	2024年度	2023年度	前年度比
期間	2023年12月～2024年11月(12ヶ月)	2023年2～11月(10ヶ月)	—
回収総量	22.63kg	12.79 kg	—
1か月あたりの重量	1.88kg	1.27kg	0.61kg増

【今後の課題】

◎回収

7号館・5号館(カフェパンセ)の2か所に設置の回収ボックスは、定期的の見回りペースよりも溜まるペースが上回っていた。これら2か所は、2025年度以降は定期的回収以外にも見回りが必要である。【図3-18】

◎活動の内容

本年度はプロジェクトとして実施したが、メンバー減少を受けて、2025年度以降は広報チームの活動の一環として実施することとする。



【図3-18】回収ボックスの中身が溢れている様子
(2024年9月25日撮影)

【達成を目指すSDGs】

- 「3:すべての人に健康と福祉を」,「8:働きがいも経済成長も」,
- 「12:つくる責任つかう責任」,「13:気候変動に具体的な対策を」,
- 「17:パートナーシップで目標を達成しよう」

本活動は、主に3つの社会課題に貢献している。1つは、私たちが回収している空ケースはリサイクルされ、二酸化炭素を削減に貢献している。2つ目は、空ケースをリサイクルする業務が障害者の自立・就労につながっている。3つ目は、回収した空ケースの収益が「日本アイバンク協会」に寄付され、角膜移植希望者とドナーをつなぐ活動に貢献している。
(担当:阪上)

(5)voluncheer(ボランティア)ガイド

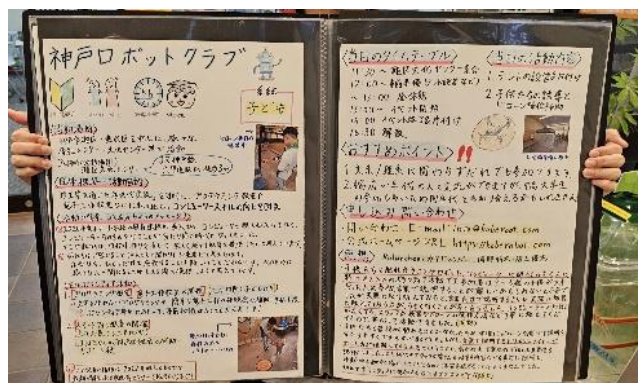


【活動概要】

ボランティアガイドチームは、地域団体でのボランティア活動にメンバーが参加し、その内容をボランティアガイドという冊子に手描きでまとめ、学生ピア相談活動などの相談ツールの充実を目指す。メンバーは、岡野将太、上間拓人、阪上優志、小林英誠の4名である。

・①:ボランティアガイドの作成

特定非営利活動法人神戸ロボットクラブに取材に行き、実際に体験した活動やその感想などをまとめたボランティアガイドを作成した【図3-19】。



【図3-19】完成したボランティアガイド

・②:ボランティアガイドの設置場所の変更

これまでは、ボランティアガイドを地域連携センター事務室内にて保管していたが、同センターの情報掲示コーナーに設置した。それにより、同センターを訪れた人が気軽に冊子を読めるように、改善した。

・③:ボランティアガイドの使い方の研修

ボランティアガイドをより多くの人の目に触れてもらうために、学生コーディネーターの秋の研修にて、ボランティアガイドの使用方法について解説した。

【結果および評価】

- ・ボランティアガイドの内容を充実することができた。
- ・ボランティアガイドを一般公開することで、学生ピア相談等で閲覧しやすくなった。
- ・2022年度から3年間本活動に取り組んできたが、次年度の活動希望者が不在のため、2025年度以降はコーディネーションチームがガイドブックの管理し、本プロジェクトチームは本年度をもって発展的解消とする。

【達成を目指すSDGs】

「4:質の高い教育をみんなに」、「17:パートナーシップで目標を達成しよう」

ボランティアの募集内容に掲載されている情報だけでなく、学生の立場に立って経験した情報・魅力を甲南生に伝えることで、街づくりに貢献したい

(担当:岡野)

4. 活動を振り返って

(1)年間スケジュール

【前期】

日程	曜日	予定
04月10日	水	春の研修①：目標および評価基準の設定
04月17日	水	春の研修②：育成プランの検討
04月24日	水	チーム活動の企画検討
05月01日	水	チーム活動企画検討、新入生歓迎会準備
05月08日	水	オリエンテーション、新入生歓迎会
05月15日	水	基礎研修①「ボランティア、地域連携活動とは」 ／【演習】チーム活動の企画づくり
05月22日	水	基礎研修②「ITリテラシー（メール、OneDrive、Teams）」 ／審査会リハーサル
05月29日	水	基礎研修③【特別講演会】「能登半島地震 災害ボランティアのいま」
06月05日	水	審査会（企画提案）
06月12日	水	チーム活動
06月19日	水	マッチングイベントのリハーサル、ピア相談活動報告
06月22日	土	「CHIKI×GAKUSEI マッチングイベント」本番
06月26日	土	チーム活動
07月03日	水	マッチングイベントの振り返り、ピア相談イベント振り返り、 ピア相談活動報告、チーム活動
07月10日	水	チーム活動、後期に向けて

【後期】

日程	曜日	予定
09月25日	水	夏季休暇中のボランティア活動経験アンケート、秋の研修①（ピア相談）
10月02日	水	交通費申請レクチャー、チーム活動
10月05日	土	関西大学ボランティアセンター視察
10月09日	水	視察の振り返り、改善に向けたワークショップ
10月16日	水	チーム活動
10月23日	水	秋の研修②（ボランティアの共有）、チーム活動
10月30日	水	チーム活動
11月06日	水	チーム活動
11月13日	土	チーム活動
11月20日	水	報告書の作成
11月27日	水	視察ふりかえりの検討結果を共有、報告書の作成
12月04日	水	新代表・副代表の発表、成果報告会の準備、報告書の作成
12月11日	水	成果報告会リハーサル
12月18日	水	成果報告会&交代式
01月08日	水	チーム編成、新リーダー決め
01月15日	水	活動の引き継ぎ、次年度に向けて

(2)メンバーのコメント

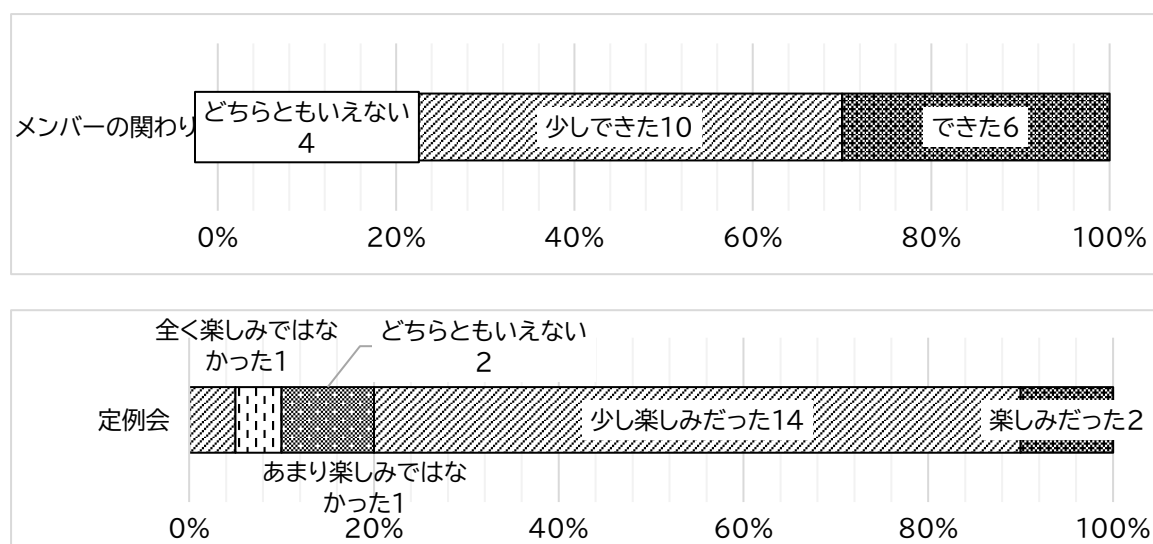
●今年度の活動に関する評価と次年度に向けて

「なんティア」代表 森川遥菜(文学部社会学科3年生)

2024年度、私たちは「①ボランティア活動に関心がある甲南大生の一步踏み出すきっかけを増やす」、「②ボランティアコーディネーション力を高める」、「③メンバー間の関わりを深める」の3つを目標に掲げて活動した。目標に対して評価基準を設け、各チームの企画実施後のアンケート、追跡調査、メンバーへの自己評価アンケートをもとに活動を評価した。

目標①の「ボランティア活動に関心がある甲南生の一步踏み出すきっかけを増やす」の評価基準は、各チームの企画実施後のアンケート調査で、「今後、ボランティア活動に参加してみようと思う」との回答が70%以上、またイベント後の追跡調査で「実際にボランティア活動に参加した」と回答する割合が30%以上とした。たとえば、CHIIKI×GAKUSEI マッチングイベントでは、「本イベントを通じて、団体の活動に興味を持ち、参加してみたいと思った団体はありましたか」という問いに対して、「団体活動に興味を持ち、参加してみたい団体を見つけた」の回答が95.7%(回答数23、回答率100%)であるなど、各事業によるアンケート結果でも概ね目標を達成した。また初めての試みとして、なんティア主催のイベント参加者に対して、その後のボランティア活動への参加について追跡調査を実施した。「あなたは、なんティア主催の企画に参加後ボランティア活動に参加しましたか」に対して「参加した」の回答が約57.1%だった(配布数:22人、回答数7、回答率:31.8%)。これらの結果から、目標を達成し、なんティア主催企画によって、甲南生のボランティア参加の意欲を高め、その後のボランティア参加につながったことは成果と言えるだろう。

次に、目標②の「ボランティアコーディネーション力を高める」の評価基準は、学生ピア相談の利用者にアンケート調査を実施し、「対応に満足・ある程度満足」と回答する割合が70%であること、メンバーが活動先を見つけること、ボランティア・サーティフィケート取得率が全体で50%以上であることとした。イベント型学生ピア相談では、「本イベントにおける個別ピア相談の満足度について最も近いものを1つ選んでください」に対して「満足」との回答が100%だった(対象者:9人 回答率:約77.8%)。メンバーへの自己評価アンケートでは、秋の研修にてボランティア活動先の共有を行い、「質問をされても、何も迷うことなく返答ができた」「広報されている情報・自分のボランティア経験に加えて、団体の方から聞いたことも含めて伝えることができた」との回答があり、ボランティア活動先について理解し、活動先の人の思いを知って活動できていることが読み取れる。また、ボランティア・サーティフィケート取得率は、50%を超える見込みである。これらの結果から、目標を達成し、ピア相談の対応の満足度が高かったことや、ボランティア紹介をする研修を実施し、活動先について、活動の意義を理解しているメンバーがいることからコーディネーション力を高めることができた」と評価できるだろう。今年度培ったコーディネーション力を発揮できるように、学生ピア相談の利用者を増やすことは課題である。



「今年度の評価アンケート」より(配布数 20、回答数 20、回答率 100%)

【図 4-1】メンバーによる自己評価アンケート結果

最後に、目標③の「メンバー間の関わりを深める」についてはメンバーへの自己評価アンケートで「所属チーム関係なくメンバーと関わるのができた」、「定例会に参加することが楽しみだった」と回答する割合が共に 70%であることを評価基準とした。「今年度の活動を通して、あなたは【所属チーム関係なくメンバーと関わるのができた】と感じますか」という問いでは、8 割のメンバーが「できた」「少しできた」と回答した。具体的には、「親睦会や食事会、ピア相談の時間で、普段チーム活動では関わることのないメンバーとも話す機会があった」、「チーム活動が本格化している時期は、他チームメンバーと関わる余裕が持てなかった」との回答があった。次に「今年度の活動を通して、【定例会に参加することが楽しみだった】と感じますか」という問いに対して、「楽しみだった」「少し楽しみだった」という回答が 8 割だった。具体的には、「話し合いや、意見の交流ができて、自分では思いつかないような意見を聞くことができるので定例会は有意義な時間だと思う」、「先輩方との交流や、新しいことを学べるのが楽しみでした」との回答があった。一方で、資料作成や準備に大変さを感じるメンバーもいた【図 4-1】。これらの結果から目標は概ね達成し、昨年より関わる機会を増やしたことが達成の 1 つの要因になったと考えられる。しかし、チーム活動が本格化するとチームを超えたメンバーの関わりが少なくなることもあるため、年間を通じて関わる機会をつくっていくことや、メンバー一人ひとりがやりがいを感じられるようにすることが課題だろう。

これら年度目標に対する評価を行い、掲げた目標に対していずれも達成することができた。交流の場を作ったことにより、なんティア全体の雰囲気が良くなったことは実感としても感じられる。一方で、各チームの活動内容や学んだ社会課題や活動の意義、甲南大生のニーズなどを共有する機会を増やすことが課題として残る。各チームの学びを共有することでメンバーの知見となり、一層甲南大生に寄り添った学生コーディネーターになることができるだろう。

●活動を振り返って

昨年から継続して実施した「ボランティアプログラム」では、振り返りの会の内容が充実し、企画の完成度の向上を実感した。リーダーとしても、チーム全員が活動主体として企画に臨むための気配りが、昨年よりも意識して取り組めた点に、自身の成長を実感した。 上間 拓人(企画チーム)	今年度は代表を務め、なんティア全体を考えて過ごした。先生や副代表、メンバーのおかげで役目を果たすことができ、感謝の気持ちでいっぱいだ。来年度もなんティアに求められていることを考えながら、メンバーがやりがいを感じて活動できる団体でありたい。 森川 遥菜(企画チーム)
今年度は授業の都合で、積極的に活動することはできなかったが、運営に携わり、少しは貢献できた1年だった。プログラム開発、ユニフォーム制作を通じて、チーム全体の成長、向上心を実感できた。今後も様々な企画を通じて、さらに活気溢れる団体にしたい。 弘中 美緒(企画チーム)	今年度は副代表として、メンバー全員のモチベーションを保つことを目標に活動した。積極的に声掛けを行い、目標に向けて活動でき良かった。チームとしては、ボランティア情報展示・相談会を今年も開催し、大きな成果を得られたことに喜びを感じた。 藤本 心菜(コーディネーションチーム)
リーダーとして、試行錯誤を重ねながらチームを運営した1年だった。その中でも、メンバーそれぞれが役割意識を持ちながら活動することができ良かった。今年度運用を始めた企画が、今後生じた課題を基により良いものへと進化させ続けていただければ、嬉しく思う。 酒井 菜緒(コーディネーションチーム)	企画チームとしてプログラムを開発しユニフォームを制作した。自分たちで企画を一から作る経験は初めてだったが、運営する大変さを学んだ。また渉外活動でメールを使う機会が多くあり、スキルも身に付いた。来年度は上回生として、なんティアを引っ張れるよう邁進したい。 小林 英誠(企画チーム)
今年度は、広報チームの役割と有志プロジェクトのリーダーの両方を務めた。はじめての広報チームで、リーダーの坂本くんにも色々教わりながら活動ができ、とてもいい経験になった。また、有志プロジェクトでもメールや企画書づくりに加えて、計画的な進行を学んだ。この経験を活かして来年度も頑張りたい。 岡野 将太(広報チーム)	昨年度の活動に比べ、1年生を引っ張っていくことが必要ななか、多くの経験を積むことができた。特にのぼり旗作成で、メンバー全員の意見をくみ取りながらデザインを決めていくことは難しく苦戦もしたが、まとめる力がついた。来年度は3年生となり、1・2年生を引っ張っていくので、より一層頑張りたい。 坂本 蒼依(広報チーム)
今年度は3つのチームで活動し、スケジュール管理の重要性を認識した。また、メンバーや他チームへの情報共有、役割の明確化がチーム活動を行う上で欠かせないことを実感できた。来年度は、今までの経験を糧に、さらに成果を出せるようチーム活動に励みたい。 阪上 優志(コーディネーションチーム)	昨年と比べて多くの仕事を任せてもらう機会が増え、様々な経験を積むことができた。企画チームでは、プログラム開発を行い雨天の中ではありましたが、イベントを実施することができとても良かった。また、様々なボランティアに参加し貴重な体験ができた。 橋本 育明(企画チーム)

今年度はアンケートの作成・収集・まとめを中心に、自分なりに試行錯誤しながら活動した。後期は授業で定例会に出席できない分、他のメンバーとの連携の準備や情報共有の大切さを改めて感じた。これまでの経験を生かしながら、来年度もさらに成長できるように取り組んでいきたい。 御手洗 由璃菜(コーディネーションチーム)	なんティアの活動を通して、様々な学びを得ることができた。今まで経験のなかったボランティア活動を始められて、今までより視野を広げることができた。さらに、メールの書き方などの社会人としてのスキルを身に着けることができた。先輩や同期とのチーム活動等、やりがいのある体験ができた。 永茂 いぶき(コーディネーションチーム)
ボランティア活動に積極的に参加することができた。また、OneDrive の使い方やメールの書き方、デザイン案の作成などを通じて、メンバーと意見を交わしながらより良いものを目指す大切さを学んだ。今後は、この経験を活かして後輩を支えながら、主体的に活動に取り組んでいきたいと考えている。 玉岡 穂ノ佳(広報チーム)	なんティアの活動を通じて、OneDrive の使い方やメールの書き方など多くのスキルを学ぶことができた。チームで協力することの大切さを改めて実感し、先輩方のサポートにとっても感謝している。来年以降は後輩を支えながら、私自身もさらに成長を目指して、活動に積極的に取り組んでいきたい。 黒田 千冬(広報チーム)
今年度特に印象に残った活動は、チラシの作成だ。デザインの工夫や情報を分かりやすく伝える重要性を学んだ。また、チームでの話し合いを通じて、自分の意見を伝える力も向上したと感じている。来年度はさらに積極的に取り組み、活動に貢献できるよう努力したい。 大橋 夏芽(コーディネーションチーム)	この活動を通して、初めて多くのボランティア活動に参加できた。チーム活動では、意見を交わしながら議論を深める楽しさを実感した。特に、デザイン案作成では、メンバーの意見を取り入れつつ、アイデアを形にする力を学んだ。この経験を活かして、今後も主体的に取り組んでいきたい。 高原 優梨(広報チーム)
大学生になってからボランティア活動に参加したが、初めての体験ばかりでとても刺激的だった。達成感もあり貴重な経験だった。なんティアの活動でパソコンの使用が多く、基礎的なことを学べた。企画チームでは、今年度の企画の広報資料を作成し、企画に貢献できた。 山野 颯葵(企画チーム)	なんティアの活動を通して、様々な学びを得ることができたと感じている。多くの方の支えのおかげで、個人・チームでの活動は、共に充実したものとなった。来年度からは、全体と所属チームの双方に、より多く貢献できるように努めたいと考えている。 中川 あかり(企画チーム)
今年度は多くのボランティア経験をした。活動を通して得た学びや発見をメンバー間で共有したり振り返ることで、ボランティア活動の意義についても考えることができた。来年度はグループ活動の場でより積極的な発言をし、なんティアの活性化に貢献できるよう努めたい。 加納 李穂(企画チーム)	なんティアに入り、初めてボランティア活動に参加したり、先輩方に教わりながらポスターの作成などに取り組んだ。なにもかも初めての体験で、内容の濃い一年になった。今年度の経験をこれからのなんティアの活動に活かし、来年度以降も頑張っていきたい。 野田 彩菜(コーディネーションチーム)

●基盤強化の4年目

甲南大学 全学教育推進機構 全学共通教育センター
地域連携センター フェロー兼任 特任准教授 岡村こず恵

2024 年度は、組織基盤の強化に臨んだ一年でした。なんティアの基盤の活動である定期的な学生ピア相談活動では、特に後期に学生の利用者数を増やすことが課題でした。そこで、今期は従来の4月開催の「ボランティア情報展示・相談会」に加えて、夏季休暇中のボランティア活動促進を目的に、「イベント型学生ピア相談会」を実施したところ、10名もの参加申込がありました。期間限定の反応の良さは、今後の活動に示唆を与えるものです。また、地元のNPOと連携したボランティアプログラムの実施では、ボランティア活動体験だけでなく、研修内容をより充実させて実施しました。さらに、2024年1月1日の能登半島地震発生を受けて、災害ボランティア活動に関する講演会に全員で参加して、その後、複数のメンバーが現地に赴いて災害ボランティア活動に従事しました。



一方、運営面では新たに育成計画を導入しました。3年生が1・2年生の活動をサポートすることを計画的に実施しようとするものです。育成目的や対象が明確になったことで、スケジュール管理や事務能力など3年生のマネジメント能力の向上につながりました。人に教えるという行為による学びの効果を実感します。また、メンバー同士の交流の機会を増やすべく、食事会や親睦会など例年以上に工夫して、チームの雰囲気さがさらに良くなりました。さらに特筆すべきは、念願のユニフォームを導入したことでしょう。デザインについて何度もメンバーや業者と話し合いを重ねて、自慢のオリジナルデザインのスポーツベストを制作しました。また、併せてイベント時等に使用するオリジナルののぼり旗も完成しました。

ユニフォームやのぼり旗は、「KONAN 未来サポーターズ募金」のご支援を受けて実現しました。この場をお借りして、ご支援をいただいたすべての皆様に御礼申し上げます。また、本年度も、地元のNPOや企業の皆様、その他学生コーディネーターの活動をお支えいただいたすべての皆様に重ねて感謝を申し上げます。今後も、ときに温かく、ときに厳しく、学生たちの成長を見守っていただければ幸いです。

(3)2024年度メンバー一覧

※在籍者数:24名(2024年12月末現在)(敬称略)

<幹部メンバー>

- ・代表: 森川 遥菜(文学部社会学科3年生)
- ・副代表: 藤本 心菜(法学部3年生)
- ・総務(データ管理, 会計, 全体広報): 弘中 美緒(経済学部3年生)
- ・広報チームリーダー: 坂本 蒼依(法学部2年生)
- ・同上サブリーダー: 岡野 将太(経済学部2年生)
- ・コーディネーションチームリーダー: 酒井 菜緒(経営学部3年生)
- ・同上サブリーダー: 藤本 心菜(法学部3年生)

- ・企画チームリーダー：上間 拓人（文学部社会学科 3 年生）
- ・同上サブリーダー：森川 遥菜（文学部社会学科 3 年生）
- ・アイシティ eco プロジェクトリーダー：阪上 優志（法学部 2 年生）
- ・ボランチアガイドプロジェクトリーダー：岡野 将太（経営学部 2 年生）

<チーム>

◆コーディネーションチーム

- ・リーダー：酒井 菜緒（経営学部 3 年生）
- ・サブリーダー：藤本 心菜（法学部 3 年生）
- ・メンバー：阪本 萌衣（法学部 4 年生）、牧 風花（法学部 4 年生）、
阪上 優志（法学部 2 年生、前期休み）、御手洗 由璃菜（法学部 2 年生、後期休み）、
大橋 夏芽（文学部社会学科 1 年生）、野田 彩菜（経済学部 1 年生）、
永茂 いぶき（グローバル教養学環 1 年生、後期休み）

◆企画チーム

- ・リーダー：上間 拓人（文学部社会学科 3 年生）
- ・サブリーダー：森川 遥菜（文学部社会学科 3 年生）
- ・メンバー：松居 ももか（経済学部 4 年生）、弘中 美緒（経済学部 3 年生、通年休み）、
橋本 育明（法学部 2 年生、前期休み）、小林 英誠（経済学部 2 年生、後期休み）、
加納 李稔（経済学部 1 年生）、中川 あかり（経済学部 1 年生）、
山野 颯葵（文学部歴史文化学科 1 年生）

◆広報チーム

- ・リーダー：坂本 蒼依（法学部 2 年生）
- ・サブリーダー：岡野 将太（経済学部 2 年生）
- ・メンバー：中嶋 勇介（経営学部 4 年生）、森川 遥菜（文学部社会学科 3 年生）、
黒田 千冬（文学部社会学科 1 年生）、高原 優梨（文学部社会学科 1 年生）、
玉岡 穂ノ佳（グローバル教養学環 1 年生、後期休み）

<プロジェクト>

◆アイシティ eco プロジェクト

- ・リーダー：阪上 優志（法学部 2 年生）

◆voluncheer（ボランチア）ガイド

- ・リーダー：岡野 将太（経営学部 2 年生）
- ・メンバー：上間 拓人（文学部社会学科 3 年生）、阪上 優志（法学部 2 年生）、
小林 英誠（経済学部 2 年生）

(4)これまでの歩み

年度	代表	副代表	主な取り組み	チーム・プロジェクト	人数
2021	中岡真唯	—	<u>地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」発足</u> 。感染症拡大のため、前期はオンラインを中心に活動し、後期から対面活動が実現した。学生ピア相談活動、第1回ボランティア活動に関するアンケート調査、LINEによる情報発信、アイシティecoプロジェクト、岡本商店街お店紹介冊子、マッチングイベント、他大学の視察など。	①コーディネーション、②地域連携、③広報、④たまごっち(リサイクル活動)	21
2022	佐々木千菜津	日比野令旺	出張型学生ピア相談イベント、こども食堂でのボランティアプログラム開発、LINEを終了しインスタグラム「nangram(なんグラム)」を開設、なんティアマーク作成、ボランティアガイドなど。	①コーディネーション、②企画、③広報、④地域連携	20
2023	松居ももか	阪本萌衣	ボランティア情報展示・相談会の4月開催、第2回ボランティア活動に関するアンケート調査、学生ピア相談活動等の動画制作、学生コーディネーターの自己紹介シート作成、児童館でのボランティアプログラム開発など。	①コーディネーション、②地域連携、③広報、④アイシティecoプロジェクト	24
2024	森川遥菜	藤本心菜	ユニフォーム・のぼり旗の制作(KONAN未来サポーターズ募金の支援を受ける)、能登半島地震における災害ボランティア研修、イベント型学生ピア相談会の開催、研修内容を充実した里山保全のボランティアプログラムの実施など。運営面では新たに育成システムを導入。	①コーディネーション、②企画、③広報、④ボランティアガイドプロジェクト、⑤アイシティecoプロジェクト	24



地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」2024 年度成果報告会にて

(2024 年 12 月 18 日撮影)

甲南大学 社会連携機構 地域連携センター
学生コーディネーター「なんティア」
2024 年度 活動報告書

制作：地域連携センター 学生コーディネーター「なんティア」
編集・発行：甲南大学 社会連携機構 地域連携センター
(電話) 078-435-2276
発行日：2025 年2月 28 日

